



北海道警察医会の今後の方針と 日本警察医会

北海道警察医会 会長 ぬまざき 沼崎 あきら 彰

北海道医師会史・創立50周年記念（1999年刊P：752）月居典夫先生執筆によると、網走署の藤田宗憲先生が中心となって道内各地で活躍している警察医達が一体となって不断の研鑽と、同じ仕事に携わる者同士の情報交換や親睦を図る会を設立しようと設立準備会を再三にわたり開催し、当時の北海道警察にも協力依頼を要請し、1975年〔昭和50年〕9月19日に会員数70名からなる『北海道警察医会』が誕生いたしました。当初は、札幌・函館・旭川・釧路の4ヵ所の方面本部と、67警察署でしたが、現在、北見方面本部が加わり5方面本部に、そして、統合合併により、平成27年66警察署、令和2年に、64警察署に減少しております。会員数も最高時には、170名を超える時期もありましたが、高齢化による退会や、新入会員の減少もあり、現在は、116名となっております。

歴代会長は、昭和50年〔1975年～〕藤田宗憲：
昭和59年〔1984年～〕吉田 信：
平成13年〔2001年～〕今 明敏：
平成22年〔2010年～〕堀江洋三：
令和元年〔2019年～〕沼崎 彰
(敬称略)

この後、令和2年度から、コロナ禍により、理事会や各方面本部での総会、そして、全道総会も開催不能となり、今年度も、第8波到来で中止となりました。ここで、一旦、「日本警察医会」について、述べさせていただき、再度、北海道警察医会の今後の方針について申し上げます。

『日本警察医会』が、平成17年4月9日、創立10周年記念日を迎えた時の、渡部忍〔青森県〕会長のご挨拶によりますと、設立当時、愛知県警察医会・会長の岡本巖先生が、「各都道府県各々に大同小異の事情はあるであろうが、警察医という大事な任務と警察医として邁進する心は同じであるので、是非一堂に会してお互いに話し合ひましょう。そして、全国組織を作ろうではないか」と全国都道府県警察

医会長・警察協力医会長に呼びかけられて、全国警察医会準備委員会を立ち上げ、第1回の京都での会合から、6回の準備委員会を経て、1年4ヵ月にわたる慎重な討論の後に、平成7年4月〔1995年〕に第24回、日本医学会総会が、名古屋で開催されるのをまたとない千載一遇の好機と捉え、全員で日本医学会総会開催中に設立総会を開催することを決定し、日本警察医会が誕生いたしました。平成7年9月から、毎年、会報を発行し、平成16年まで、第13号を発行。

日本警察医会が誕生した平成17年からは、毎年、全国各地で、総会・学術講演会を開催しております。

平成5年5月5日・第760号日医ニュース『今、警察医は！』によりますと、司会の坪井栄孝副会長からの、警察医制度の経緯について、福岡県医師会の本間守一先生は、『警察医の歴史は、警察ができたときからあると思っている。知っている範囲では、昭和20年代に佐賀県でできたのが最初でないか。その後は、ずっと遅れて、昭和50年前後ボツボツで始め、昭和60年、日航機事故を契機として全国に医師会あるいは歯科医師会を中心として警察医会が急速にできたようです。しかし、警察が世話役として作ったのが一番多いようで、熊本県のように大学が母体となって作ったものが2、3ある。愛知県のように県医師会が母体になって作ったものがあるが、やはり、日医ないし県医師会主導型の警察医会を作っていたきたい、各県バラバラでは、まったく力がありません』と、痛切に要望しております。

このように、平成5年頃から、全国統一組織化という話が語られていましたが、なかなか具体的には、進展がなく経過しておりました。しかし、2009年〔平成21年〕頃より、ようやく、日医との連携に向けての協議が始まりました。

2009年9月26日：日本警察医会強化準備期を立ち上げ、当時の『宝住日医副会長を歓迎する会』を開催し、連携強化の要望書を提出。その後数回の準備会を開催し、その都度、日医担当課長らと、今後の日医との関わり方、協力方について連携をとり、業務の重要性・連携をとるための趣旨を示した。

そして、平成22年3月16日、日医理事会・打ち合わせ会で下記の内容が協議された。

イ) 趣旨の提案

日本医師会として日本警察医会との連携を深め、同会の全国組織化を促進・支援する。

ロ) 現状と問題点

- 1) 警察医制度の全国的な不統一
- 2) 現在の警察医の組織力
- 3) 警察医の検案技能の充実

ハ) 現在の日本警察医会を全国組織化することの重要性

ニ) 日本医師会と日本警察医会との連携強化することの重要性

- 1) 検案に関する知識・技能の普及・向上
 - 2) 警察・司法との連携・調整
 - 3) 公益性
- ホ) 今後の予定
- 1) 日本医師会が「警察医問題」担当の役員・事務局の分掌を設ける
 - 2) 新年度早期には、日本医師会・日本警察医会双方の役員による意見交換の場として「連絡協議会」を開催する
 - 3) 日本医師会の体制が整った段階で、都道府県医師会にも同様の取り組みを求める
 - 4) 名称を検討する〔内容・構成メンバー等を考慮して〕

その後、平成22年5月30日〔日〕第3回強化準備会に、日医副会長・横倉義武先生に、ご出席をいただき、日医会長と日本警察医会・川口会長が懇談する日程を日医の方で調整し、できれば6月中に実現したい旨、そして、7月に開催される第16回日本警察医会総会・学術講演会に、日医から原中会長の代理で、横倉副会長が出席される事などを決定し、今後も、日本警察医会への協力をいただくことを確認した。

平成21年春、長い間、会長を勤められた渡部会長が亡くなられて、熊本県警察医会・会長の川口先生になられてから、状況が大きく変化いたしました。

真の警察医の全国組織を作るには日本医師会との連携以外に道なしと判断し、平成24年〔2012年〕9月の宮崎県での総会で、日本警察医会の発展的解散を提案し、会員に承認され、さらに、平成24年12月19日日本医師会に赴き、日医内に新たな警察医の組織を作っていただくことの段取りが整えられました。

そして、平成27年1月10日（土）日本警察医会解散式が執り行われ、最後の会長として万感胸に迫る

思いを込めてご挨拶がありました。詳細は省きますが、「今回の解散は、日本警察医会がこれまで行ってきた活動を日本医師会にバトンタッチする事であり、日本における警察医活動の発展に大きく寄与するものと考えます。この時期を逃しては警察医の真の全国組織設立は不可能であると判断させていただいた次第である。今後は、日本警察医会・会員一同、日本医師会の組織の一員として、警察行政に協力してまいる所存であります」と締められました。

その後、日医において、各都道府県医師会に対し、アンケート調査等を行い、『警察医活動に協力する医師の部会（仮称）の設置を依頼し、平成28年（2016年）3月6日（日）日医会館において、連絡協議会・学術大会を開催。

しかし、日本医師会が全国組織を創設すべく努力しているのですが、地域により、医師会レベルの警察医会の発足が遅延しているため、なかなか前に進まない状態が続いており、また、コロナ禍の中で、ここ3年間、会議等も開催することができない経緯となっております。

本年度、北海道医報9月号に、当会の副会長で、北海道医師会副会長でもある、鈴木伸和先生が、『指標』で『都道府県医師会主導の警察活動に協力する医師の部会（仮称）設置と全国組織化について』が掲載されました。重複は避けませんが、北海道警察医会の今後の方針として、できるだけ早く、各地区の警察医会が、各都道府県医師会に所属することで、日本医師会も、全国組織化が推進されると考え、日本警察医会と同様、北海道警察医会も、まず解散して、北海道医師会主導の組織に変わることが必要であると考え、12月18日（日）役員会・理事会に諮り、賛同を得ましたので、令和5年1月22日総会を招集し、会員の皆様にご承認いただくべく、事を進めたいと思っております。